二十一世紀最初の

拍

日本邦楽家友好交流訪中団

(青木鈴慕

団長、鳥居名美野副団長、佐薙岡豊、

山崎和男、佐野奈三江らの諸氏)訪中。

左)の諸氏

मि

御遺族の到着を待つ團伊玖磨団長の御遺体 の前で、協会代表団の中村芝翫(後中)、

子(後右二)、齋藤真希子(後左一)の諸氏。

## 2001年

年にわたり中国への愛着と熱意をもっ として先頭に立って活動中のことだった。 て友好と文化交流の発展に尽力、会長 氏は協会の草創期から長 会代表団団長として中国 周年そして前代未聞、驚 協会にとって創立四十五 訪問中の團伊玖磨会長が 天動地の年となる。五月 **十七日、日中文化交流協** 

則にふれる問題で陰りの見え出した日 びる。教科書検定や李登輝訪日など原 日に靖国神社を参拝、内外の批判を浴 小泉内閣が成立。小泉首相は八月十三 力に変えて進むこととなった。四月に 諸氏が分担する合議制とし、悲しみを 北村和夫、辻井喬、中村芝翫、野村浩 上勉、松尾敏男、森塚敏、伊藤京子、 一、篠田正浩、黑井千次、白土吾夫の

務を各代表理事すなわち髙山辰雄、水

團会長を失った協会は当面、会長の任 に加盟。〇八年オリンピックの開催地 国はこの年、WTO(世界貿易機関) が北京に決まる。 国主導の反テロ軍事行動が始まる。 ヨークなどでの同時多発テロ事件。 車を掛けることになる。九月にニュー 中関係、特に政府間関係の悪化に、

好宣言」発表大会、佐藤純子専務理事、 横川健常任理事事務局長が出席。 十七団体による**「新世紀の日中民間友** ◎1月 北京・人民大会堂で日中民間 〈二〇〇一年の主な交流

島誠一郎団長)訪中。 〇 2 月 信濃デッサン館友好訪中団

中野暁の諸氏)訪中。日本音楽家訪中 方南、千葉軒岳、南八郎、田中廣悦、 ◎4月 日本書道界囲碁愛好者訪中団 (大井錦亭団長、高際翠邦副団長、村貫 (伊藤京子団長、中山欽吾、 中村透、原信之秘書の諸氏) 倉田澄

・ホテルニューオ

協会主催の「團伊玖磨会長 村雅子(前中)、利根川裕(後左二)、佐藤純 を偲ぶ会」を東京で開催、 篠田正浩代表理事は「日中 張学蘇州市対外友協副会長(後右一)、洪軍 間にどんな困難が有っても (前右)と北京から一行に同行の袁敏道(前 交流を絶やしてはならな 2001年5月17日 蘇州 という團会長の遺志を 受け継ぎ、その発展に尽力

したい」と遺影の前であい さつを述べた

追悼の心を込めた見事な演奏で聴衆の感動 を呼んだ北京での「團伊玖磨作品音楽会」。 「夕鶴」のアリアを歌う足立さつき氏

2001年5月31日

中村順子秘書の諸

(窪 国映画「山の郵便配達」が九月まで口廷玉、李小雨、陳喜儒の諸氏)来日。中 中国作家代表団(鉄凝団長、 中村雅子、利根川裕、佐藤純子、齋藤 **協会代表団** (團伊玖磨団長、中村芝翫、 川健秘書の諸氏)訪中。日中文化交流 磯村智恵子、野田泰弘、 宏彦団長、大島貴美代、磯村巌顧問、 ◎5月 日本中部文化界訪中団 ングランに、当協会が協力。 佐藤卓男、 楊

多賀敏夫、蔵隆司、 秘書長、横川健副秘書長、足立さつき、 五周年記念「**團伊玖磨作品音楽会**」に 十五周年·国立中国交響楽団創立四十 行十九名訪中。北京での当協会創立四 江沼半夏両総務、 迪雄団長、米田憲三副団長、柴垣光郎、 **友好訪中団**(梅沢直正名誉団長、久泉 玖磨会長が蘇州で急逝、十八日、御遺 真希子の諸氏)訪中、五月十七日**團伊** 團伊玖磨作品北京公演参加友好訪中団 《辻井喬団長、團紀彦副団長、佐藤純子 遺族らとともに帰国。富山県歌人 佐藤祥子秘書長) 八木正行、桜井健

国文学芸術界連合会代表団 閻炳武、袁敏道、 **団**(陳昊蘇団長、呉瑞鈞秘書長、張軍、 事が出席。中国人民対外友好協会代表 **陳健大使歓送昼食会**、黑井千次代表理 ◎7月 当協会など日中友好六団体が **〒会代表団**(高運甲団 董振華の諸氏)と**中** 朱砂、

北京·中山公園音楽堂 一、佐藤静恵秘書、

田裕介(左一)、永井和子(左三)、 がら霍去病墓で漢代の石彫を見る滝 松尾敏男団長(左三)の解説を聞きな 尾愛夫人(左四)ら協会代表団一行 松



最近の舞台活動について紹介する 昆劇研究家の王蘊明秘書長(右)に 日 本演劇家訪中団を率いて訪中、

佐々木愛団長

─二1○○一年九月二十日 北京

100一年十一月十八日 西安



世代の文学事情を聞く(左へ) 黒井千次代表 理事、辻井喬顧問

2001年4月13日 東京・歓迎パー



中国人民対外友好協会主催の宴会 会長(中)の歓迎を受ける大島宏彦団長(左)、 磯村巌顧問 北京·釣魚台国賓館

◎ 10 月 表団 団(呉貽弓団長、洪紐一、毛国倫、 雄、八木幾朗、小暮貴代の諸氏)訪中。 寸 原信之の諸氏) 訪中。 日本美術家訪中 団長、八木昌子、古城十忍、 〇 9 月 志軍の諸氏)が来日し、東京で当協会

(絹谷幸二団長、陰里鐵郎、

奥岡茂

日本演劇家訪中団

阿部敦子、 (佐々木愛 日本少年野球選手団

(谷井

胡暁軍の諸氏)来日。中国出版代 (楊徳炎団長、呉尚之、黄国均、

◎ 11 月 小阪裕一 原信之秘書長)一行二十九名訪中。 藤幸嗣、 松尾愛、 文化交流協会代表団(松尾敏男団長、 久間十義、 江観団長、 宜郎、山田史生、入村泰山、大門武二、 伊藤啓子、前野昭吉、 日本文化界囲碁訪中団 雒書秋、任裕湛、馮建新の諸氏)来日。 岳団長、福田燁岳、久野正憲両副団長、 **「琇峰岳風会」 吟道友好訪中団**(福田琇 永井和子の諸氏)訪中。 一秘書らの諸氏)訪中。 横川健秘書長、 日中文化交流協会代表団 中野暁の諸氏)訪中。 鈴木隆顧問、辺見じゅ 村上昭春、 (伊藤礼団長、 滝田裕介、 斎藤 日中 日本 À,

イプのけむり」、音楽監督として十二 刊とともに終止符を打った名随筆「パ サヒグラフ』に連載三十六年、休 なる日本音楽史上初の試み、D 作曲家として生涯の総決算と YEAR OOO", "7

い、協会の歴史に一期を画した名会長

「團伊玖磨会長を偲ぶ会」に出 上海市文学芸術界連合会代表 という。翌日夜、 を進めていた。團会長の急逝は、青天 さらに氏の作品・オペラ「ちゃんちき」 間後にはみずから指揮する北京の の急逝……、團会長逝去の前年は、 年間続いた、駅コン、終了、 わざか。氏もまた余人をもって替え難 都蘇州での急逝は自身の美学のなせる でに喜寿である。大好きな中国、 若々しく活動的だった。とは言え、す を導くにあたって誤ることなく、 る氏の歴史感覚と芸術的直感は、 て広くアジアの人々との友好を築き得 記憶とともに押し寄せる。中国、そし きい悲しみが、 て来る。遅れた分、いやそれ以上に大 のかも知れない。 宅に戻れたのは、 ないが悲しんでいるゆとりは無かった へ帰すということで、故人には申し訳 御遺体を荼毘に付さず一刻も早く日本 日中双方あらゆる関係部局を動かし、 た氏の急逝、途方に暮れる状況の中で、 った。つい一時間半前まで談笑してい これほどの衝撃に出会ったことはなか 事も協会事務局に入って四十余年来、 で氏の最期を看取った佐藤純子専務理 の霹靂だった。蘇州市・第二人民病院 三十周年記念事業として具体的な準備 の北京公演も協会が翌年の国交正常化 伊玖磨作品音楽会」が控えていたし、 ぜかおわりに縁があった。逝去の二週 歩んだ日々の鮮やかな 悲しみは遅れてやっ團会長の遺徳だった 御遺体が横須賀の自 和子夫人

## 2002年

事専務理事が中国文化省の「文化交流 同賞の第一回受賞者は故團会長であり、 貢献奨」を受賞、九七年に創設された ゃんちき」北京公演など多彩な交流を 中作家会議、故團会長作曲のオペラ「ち の栗原小巻映画祭、北京、上海での日 繰り広げた。その中で白土吾夫代表理 日中書道交流展、北京で くの相互往来はもとより 協会も全力を挙げて、 相互に設定され、多くの 記念事業が行なわれた。

て「日本年・中国年」が 正常化三十周年を迎え が再び靖国神社参拝、瀋陽総領事館事 長が来日したが、帰国直後に小泉首相 それに続く受賞として嬉しいことだっ 総書記に就任。 言」もこの年。中国では胡錦濤氏が党 サッカーW杯日韓大会、「日朝平壌宣 件など、依然として暗雲が漂っていた。 た。日中関係は四月、李鵬全人代委員

会見。アピール発表。 横川健常務理事が出席。江沢民主席が **表者会議**」開催。佐藤純子専務理事、 ◎1月 北京で「日中民間友好団体代 〈二〇〇二年の主な交流〉

◎3月 中国人民対外友好協会代表団 (王蒙団長、崔瑞芳、呉瑞鈞秘書長、崔 粱林冲の諸氏) 来日。 日本書道

> 界囲碁愛好者訪中団(大井錦亭団長、 高際翠邦副団長)訪中。

開幕式記念行事に孫家正文化相が当協 〇 4 月 (栗原小巻団長、栗原美知、木村美智子 当協会と日本経済新聞社の主催。 「日本における中国文化年」 開

芸を継ぐ子息梅保玖氏(右三)の歓迎を受ける日本伝統 中村雅子(左 ◎5月

京子、原信之の諸氏)が訪中し、 秘書長、品田雄吉、三好京三、佐々木 が出席。「栗原小巻映画作品展」代表団 会、辻井喬代表理事、栗原常任理事ら 日中友好七団体が李鵬委員長歓迎午餐 家正文化相、栗原小巻常任理事)」 「二十一世紀の日中文化交流(講師・孫 会と外務省の招きで来日、記念講演会 で**「栗原小巻映画作品展」**に出席。 東京で「團伊玖磨追憶の会」。

(左二)、成瀬浩子(左一)の諸氏 2002年10月10日 **團伊玖磨作曲オペラ「ちゃんちき」北京公演のカ** 

記念館として公開されている梅蘭芳の旧居で、女形の

芸術家訪中団の中村芝翫団長(右四)、

三)**、常磐津英寿**(右一)**、鈴木シゲ子**(右

-ル。拍手の嵐に応える(右から)鵜木絵里 山口俊彦、 天田美佐子の諸氏。 後方は中

王宏喜、潘宝珠、 子、齋藤真希子の諸氏)訪中。 上海市 塚敏団長、藤村貴彦、星忠伸、住田素 〇6月 **人民対外友好協会代表団**(王安憶団長、 日中文化交流協会代表団(森 李永萍、 張雪蓮の諸

来日。写真家の稲越功一氏訪中。 ◎ 8 月 に中国書法家協会代表団(沈鵬団) 道会、中国書法家協会の主催、開幕式 で開幕、 〇 7 月 当協会、 **「日中書道家作品交流展」**東京 **国紀彦氏一家**が訪中。宋代文 毎日新聞社、 毎日書

化考察訪中団(千葉爽団長、

田所竹彦

副団長、佐藤祥子秘書長、土井庄一郎、 書長) 一行九名訪中。 **賞」訪中団**(吉川周平団長、 切誠の諸氏)訪中。日本「新疆曲芸鑑 木正彦、土肥義和、土肥祐子、堀田裕 吉田寅、吉田八重子、芦澤美佐子、佐々 一次、渡辺紘良、浅井克男、山下明、岩 中野暁

年記念祝賀会に出席。白土吾夫代表理 部長、佐藤祥子の諸氏)訪中。日本作 事、「文化交流貢献奨」受賞。 諸氏)訪中、北京で国交正常化三十周 樋口陽一、佐藤純子、長野微ばるりの **団**(加藤周一団長、矢島翠、藤原智子、 家会議」に出席。日中文化交流協会代表 子の諸氏) 訪中、北京と上海で「日中作 財部鳥子、坂上弘、 長、横川健秘書長、秋山駿、 **家訪中団**(辻井喬団長、黑井千次副団 啓視森北出版部長、朝倉誠造朝倉書店 社長、新谷滋記工業調査会常務、吉松 中山書店社長、田中久米四郎電気書院 ◎ 9 月 日本出版訪中団(平田直団 稲葉眞弓、松本侑 髙井有一、

足立さつき、佐藤純子、 張愛平の諸氏

した。(左から)**團紀彦、團飛鳥、** 会長の墓前で自作の追悼詩を朗読 家正文化相(右手前)は、團伊玖磨 協会と外務省の招きで来日した孫

100二年四月三日

東京·護国寺

展◎用10 斎藤明社長、

卓義、岸本太郎、小林抱牛、寺田健一、 大井錦亭、大野篁軒、大平山濤、 開幕・祝賀会に毎日新聞社の 「日中書道家作品交流展」北京 毎日書道会の稲村雲洞、

朴堂、 神郡愛竹、 成堂、渡辺寒鷗、石飛博光、内山玲子、 管野清峯、 中村龍雲らの諸氏、当協会の佐 中野暁の諸氏など四百余名が 大楽華雪、辻元大雲、 野口白汀、船本芳雲、 寺井

訪中。

日中経済人囲碁対局を上海で開



流

加した。鄧友梅氏(前左四)ら北京の作家諸氏 2002年9月24日 中国作家協会ホ

すみ夫人、林林中日友協副会長、辻 に開幕した。テープカットの直後、 (左から)**劉徳有元文化省次官、** 東山魁夷石版画作品展」 が華やか

井喬代表理事、宮家邦彦公使の諸氏

100二年十一月十一日 北京・対外友協友誼館

原萬、 諸氏) 訪中。 **訪中団**(一力一夫団長、一力博子、 藤祥子の諸氏) 訪中。 日本東北文化界 鈴木シゲ子、 村芝翫団長、中村雅子、 氏が訪中。**日本伝統芸術家訪中団**(中 美、波岡實、 和子、鈴木隆、清木美睦子、中村喜久 渡辺淳一、浅川吉男、奥濱孝二、 中嶋敏朗、林耕芳、山下和彦、 下野讓、清木邦夫、竹野巖、 渡辺雄彦、 坂本治子、 西山英熙、山縣睦子の諸 後藤隆道、 成瀬浩子、 常磐津英寿、 利光松男、 原信之の 、渡辺泉、 小西

演団 ◎ 11 月 画作品展」開催、贈呈式と同展開幕に、 協へ寄贈、 故東山魁夷代表理事夫人東山すみ氏が 利劇院でオペラ 「ちゃんちき」 を公演。 天田美佐子、スタッフ・岡島茂夫、吉 勝部太、鵜木絵里、崔岩光、山口俊彦、 功太郎、演出・小田健也、ソリスト・ 真司、服部順子夫人、三善清達、 東山画伯のリトグラフ五十点を対外友 家らの諸氏)総勢六十名が訪中し、 井澄雄、緒方規矩子、西田堯、 彦各顧問、佐藤純子総務、指揮・佐藤 (辻井喬団長、堤麻子夫人、 オペラ「ちゃんちき」 対外友協は「東山魁夷石版 小栗哲 一訪中公 團紀 服部

程世鑑、劉華容、李華藝の諸氏) 中国演劇家代表団(余笑予団長、韓新民、 徐宝玉、劉光宇、劉暁音の諸氏)来日。 中国音楽家代表団 (傅庚辰団長、呂遠) 席に贈った東山氏の作品)を特別出品。 **暁」**(七二年、田中角栄首相が毛沢東主 椛島裕一の諸氏)訪中、同展に「春 来日。

章夫、木村健一、後藤克彦、小松健男、 鶴田卓彦、伊藤潔、小船井良夫、 本経済新聞社)、対局・前夜祭参加等で 催(主催・中国囲棋協会、当協会、

つとはこういうことだが、この間、 して居合わせた人は、今や概ね五十歳 どもが三十歳、さすれば正常化 だが、正常化の年に生まれた子 が成った歴史的瞬間におとなと 国交正常化三十周年、

数字ですぐにも示すことができる。文来人数、貿易額などは年毎の具体的な の役割を存分に果たしていくだろう。 てこれからも、この息の長い、老朋友に 反映される。 できないが、 発展である。相互理解の程度は数字に な友好の広がりと持続こそ文化交流の 紹介し、世代を継いで生まれ育つ強固 友人・老朋友が、絶えず新しい友人を のためである。日中双方の古くからの を交流事業の中心に据えているのもそ が創立以来、文化各界の代表団の往来 た営為が核になっているからだ。協会 り、心を通わせる、長い時間を見通し に携わる人々が往来を重ね、 化交流はそうはいかない。双方の文化 たことになる。中国も同じだ。時が経 以上、四十代の人は当時概ね学生だっ 中関係は発展しただろうか。双方の それは両国関係の密度に 友人とな 往日

奇妙な凸目銅面具の出土で 有名な三星堆遺跡の博物館 を参観する協会代表団の加 藤周一団長(右二)、矢島翠 (左二)、藤原智子(右一)、 樋口陽一(左一)の諸氏 -2002年9月26日 四川省広漢市

東山すみ夫人一行(東山すみ、 斎藤進、長野微ばるりの諸氏) 谷岡清、佐々木徹、 (島田昌幸、 と日本